

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520080

研究課題名(和文) 中世文化における周縁テキスト(雑書)に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on the periphery text (Zassho) in the Middle Ages culture

研究代表者

伊藤 聡 (ITO, SATOSHI)

茨城大学・人文学部・教授

研究者番号：90344829

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中世神道書、中世の医学書、通俗仏書、偽書など、近代の分節化された従来の学問的秩序にあって、狭間にある多くの境界的テキスト群を「雑書」という名で呼び、その総合的研究を目指したものである。現在、全国各地の寺院その他に所蔵される雑書資料の調査を行い、その伝来状況や内容について検討した。その調査成果を元に、中世神道を中心とした「雑書」の諸相に関する報告を、口頭発表・論文・資料報告の形で報告し、それらの文化史的・思想史的意義を追究した。

研究成果の概要(英文)：This is a comprehensive study on "Zassho" of the Middle Ages. "Zassho" is a general term for various texts such as medieval shinto texts, medicine works in medieval Japan and popular Buddhist writings, which had been excluded from the normal academic research so far. I investigated Zassho Texts in some of the temples and was pursuing their cultural historical-intellectual history significance.

研究分野：日本思想史

キーワード：雑書 神道書 中世文化 通俗仏書 中世医学書

1. 研究開始当初の背景

近年の中世研究における、諸学横断的な状況は、各々の研究対象を著しく肥大化させた。文学研究においていえば、いわゆる「文学」の範疇に入るテキストのみが対象ではなく、宗教・思想・歴史・自然科学等にわたる多種多様なテキスト群が、研究対象に入ることになってきた。

そのなかで、近代の分節化された従来の学問的秩序にあって、狭間にある多くの境界的テキストが研究対象から排除されてきたことが、多くの研究者によって気づかれるようになってきた。神道書(両部神道書)、通俗仏書(立川流伝書)、兵法書(兵学書・武術書・弓術書・馬術書)、医書(薬法書・養生書・馬医書)、呪法書・占法書(陰陽道書・修験道書・曆書)、各種芸道書(楽書・作庭記・大工書)などがそれに当たる。しかし、多岐にわたるこれらのテキストについての十分な調査・研究は、未だ行われてはいないのが現状である。

2. 研究の目的

本研究では、それら既成の学問秩序の範疇からはみ出しているという外的状況を共有する、相互に異質なテキストの集合体を「雑書」の名で総轄して呼び、その総合的研究を目指した。「雑書」とは、極めて便宜的且つ曖昧な概念ではあるが、今見いだされつつある、或は未だ見いだされていない、種種雑多なテキストを研究対象として定位するための戦略的方法として選ばれたものであった。

私は、本研究以前から、中世神道書に関する、その中世文化・日本文化史上の意義を追究してきた。中世神道書も、長い間、正当な学問の対象と見なされていなかった。その意味で典型的な中世の「雑書」である。2004年度～2006年度には、科学研究費補助金「中世神道と密教の異端思想の関係に関する研究」(基盤(C))を受けて中世神道と密教の異端思想(立川流等)との関係について研究を

行なった。次いで、2007年度～2009年度には、科学研究費補助金「中世神道の文化的影響 特に中世の周縁的資料への新たな位置づけを意図して」(挑戦的萌芽研究)を受けて、中世神道書と周辺のテキスト(ここでいう「雑書」との関係)を軸に研究を行なった。そして、2011年1月に『中世天照大神信仰の研究』(法蔵館)を刊行し、中世神道と密教・文芸との関係について包括的に論じた。今回の申請研究は、以上の成果と今回刊行した著作を土台として、周辺テキストについて「雑書」の名の下に総合的に研究を行なおうとするものであった。

3. 研究の方法

私の研究手法は、各地の資料保存機関(寺院・図書館・文庫)において一次資料を調査・データ収集(複写・撮影)し、その伝来状況や内容について検討するなかで行われる。迂遠にみえて最も重要かつ喫緊な方法である。今回においても、その手法が踏襲された。

調査した資料群を整理・分類し、総合的な「雑書」のデータベースを構築することが目指された。特に重要な資料については、内容の解読・翻刻、個別的研究を行い、成果は、研究論文、翻刻等として、順次学術誌等に発表することとした。

4. 研究成果

調査を行ったのは島原市立図書館松平文庫、西福寺島原市図書館松平文庫(長崎県島原市)、西福寺(京都府井手町)、勤修寺(京都市)、真福寺(名古屋市)、善通寺(香川県善通寺市)、安住院(岡山市)、豊田市郷土資料館、京都大学総合博物館(京都市)、県立金沢文庫(横浜市)、覚城院(三豊市)、富士市博物館である。以上の調査成果を元に、中世神道を中心とした「雑書」の諸相に関する報告を、口頭発表・論文・資料報告の形で報告した。

このうち西福寺の調査は、計画立案時には

調査対象地と考えていなかったが、機会に恵まれ調査した結果、本研究とも深く関わる、神道灌頂資料一式が残されていることが判明したので、継続的に調査、撮影を行い、2014年12月の仏教文学会12月例会において、奈良女子大学教授千本英史、大阪大学研究員中山一麿、早稲田大学非常勤講師鈴木英之、奈良女子大学大学院向村九音とともに、シンポジウム「南山城と神道灌頂 井手町西福寺所蔵資料をめぐって」を行った。

そのほか、真福寺、県立金沢文庫、豊田郷土資料館、富士市博物館において、中世の身体観に関わる密教書・医学書に関する調査を行い、その成果をもとに2014年8月スロヴェニアのリュブリャナ大学で行われた、EAJS(ヨーロッパ日本学協会)リュブリャナ大会におけるパネル「宗教表象における身体 声・儀礼・造形」に、ロンドン大学教授ルチア・ドルチェ、名古屋大学教授阿部泰郎、千葉大学教授柴佳世乃、神戸学院大学准教授米田真理子とともに参加、「密教的性愛思想の中世神道説への影響」という報告を行った。

以上の研究により、図書3件(うち単著1冊を含む)論文13件、発表8件に結実した。

なお、当初の計画ではデータベースの構築を目指したが、今回の研究期間内では、資料の偏りも多く、当初の目的まで達しなかった。今後は、今回収集したデータをさらに広げることで、総合的な「雑書」のデータベースを構築したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

伊藤聡、「中世の天照信仰 特にその太陽神イメージをめぐって」、鈴木健一編『天空の文学史 太陽・月・星』三弥井書店、217-236、2014、査読無

伊藤聡、「中世神道 空海入定後の両部神道」、『歴史読本』、60巻2号、104-109、

2014、査読無

伊藤聡、「幻視される始原 中世神道書における天地創成説」、『古代文学』53号、19-28、2014、査読無

伊藤聡、「カミ信仰から「神道」へ」、『創』47号、54-85、2014、査読無

伊藤聡、「「神道」研究管見」、『日本思想史』45号、51-63、2013、査読無、

伊藤聡、「中世神道・神祇信仰の観点からみた説話研究」、『説話文学研究』、48号、46-57、2013、査読無

伊藤聡「神道灌頂の形成」、『立教大学日本文化研究所年報』10・11号、79-85、2013、査読無

伊藤聡、「「若梵若聖偈」の形成と享受」、『アジア遊学』161号、163-175、2013、査読無、

伊藤聡、「秘儀としての注釈」、苅部直・黒住真・佐藤弘夫・末木文美士編『岩波講座日本の思想 第七巻 儀礼と創造 美と芸術の原初』岩波書店、143-177、2013、査読無、

伊藤聡、「天文年間における吉田兼右の山口下向をめぐって」、『文学』、13巻5号、104-120、2012、査読無、

伊藤聡、「神道の形成と中世神話」、『日本思想史講座2 中世』ぺりかん社、299-332、2012、査読無、

伊藤聡、「勤修寺蔵『大日如来金口所説一行法身即身成仏経』 翻刻と解題」、『勤修寺論輯』4号、37-48、2012、査読無、

伊藤聡、「臨終と魔」、小峯和明編『アジアの今昔物語集 翻訳・変成・予言』勉誠出版、242-260、2012、査読無、

[研究発表](計8件)

伊藤聡、「西福寺の神道灌頂」、仏教文学会2014年度12月例会シンポジウム「南山城と神道灌頂 井手町西福寺所蔵資料をめぐって」2014年12月14日、奈良女子大学(奈良県・奈良市)、

伊藤聡、「密教的性愛思想の中世神道説への影響」、EAJS(ヨーロッパ日本学協会)リュブリアナ大会パネル「宗教表象における身体 声・儀礼・造形」、2014年8月29日、リュブリアナ(スロヴェニア)

伊藤聡、「カミ信仰から「神道」へ」、清泉女子大学文化史学会、2013年12月11日、清泉女子大学(東京都・品川区)

伊藤聡、「鎌倉時代における僧徒の参宮と神道説の形成」、日本宗教学会第72回学術大会パネル「聖なる場としての伊勢神宮 その聖性を考える」、2013年9月7日、國學院大學(東京都・渋谷区)

伊藤聡、「夢想と観想 鎌倉時代の僧たちの伊勢参宮」、国際日本文化センター国際シンポジウム「転換期の伊勢」2013年7月26日、国際日本文化センター(京都府・京都市)

伊藤聡、「幻視される始原 両部・伊勢神道書における天地創成説」、2013年度古代文学会シンポジウム「変成する言葉 - 古代文学の書物・身体・知」第2回「日本書紀 - 書物を場とする言葉の変成と宗教儀礼空間における言葉の変成について」2013年7月6日、共立女子大学(東京都・千代田区)

伊藤聡、「神道灌頂の形成」、立教大学日本学研究所主催国際シンポジウム「日本学の現在と未来」(招待講演)、2012年12月04日、立教大学(東京都・豊島区)

伊藤聡、「中世神道・神祇信仰の観点からみた説話研究」、説話文学会平成24年4月例会、2012年4月21日、駒沢大学(東京都・世田谷区)

〔図書〕(計3件)

阿部泰郎・阿部美香・伊藤聡・大東敬明・柴佳世乃、『六所家総合調査報告書 聖教』富士市教育委員会、417-431(伊藤担当分)、2014

阿部泰郎・柴佳世乃・米田真理子・伊藤聡、『宗教的身体テキスト資料集』、私家版、38-42

(伊藤担当分)、2014

伊藤聡、『神道とは何か 神と仏の日本史』、中央公論新社、総頁306、2012、

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 聡 (ITO SATOSHI)
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号：90344829

(2) 研究分担者

なし

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし

研究者番号：